

60年代の新設普通科高校〈4〉 —相模原高校—

◆ 日 時：2017年12月2日（土）

◆ 語り手：入江 諄一さん

◆ 聞き手：永田 裕之、矢野 慎一



3校の新設準備にかかわる

—— 最初にご経歴を伺います。

入江 1960年が大学4年の時です。安保の洗礼を受けて津久井高校の定時制に赴任しました。当時新採用は中学校か、定時制高校が多かった時代だと記憶しています。津久井には3年間いましたが、3年目に相模原に受験校を作るので力を貸してほしいと言われ、1月から相模原高校の創設準備に関わりました。3月までは兼務です。準備のために10人の職員がいましたが、火曜日と金曜日が全員揃う日で職員会議をやりました。私の場合、昼間は相模原高校開設の準備の仕事をして、3時くらいに津久井に戻るとい生活を送りました。

相模原には8年いました。次が小田原城内で6年間、そのあと柿生西高の開設準備でこれも2月からでした。柿生西には5年間いました。4校目も有馬高校の新設準備で2月からでした。相模原の経験を買ってくれたのか、皆1、2月からで、立ち上げから参加できたのが一番の思い出です。県下いろいろな学区に行きたいと思っていたので、横須賀、湘南以外は大体経験できたことは財産だと思います。

有馬には8年間いましたが管理職で出てしまい、教頭になって相武台で3年。校長になって中沢で3年、相模原に戻って2年。相模

原が合計10年ということになります。

—— 津久井時代で印象に残ったことがありますか

入江 生徒の兄貴分という感じでしたね。年齢が一番上の生徒は33歳で、若くても18歳くらいですから、何をやるのも一緒でした。私の下宿は生徒たちの遊び場でしたし、先生たちとの距離も近かったです。津久井の思い出は非常に強いです。教師としてやって行ける、教師になって良かったという思いを持たせてくれた、そんな場になりました。基本を作ってくれたという感じですね。技術的には相模原で基本を作ってもらいましたが、生徒や保護者、地域の方たちとの気持ちの持ち方という面では津久井でした。

担任は定時制でしたが、昼間のテニス部の顧問をしていました。司書の免許を持っていましたので、図書の司書もしていました。10時から3時頃まで図書室にいて、3時からテニスをやり、5時からが定時制でした。生徒には看護師さん、バスの運転手、津久井湖造成の作業員がいたりしましたが、皆しっかりした生活を送っていました。大学を出てすぐに教員になり、教員しか知らない自分にとっては刺激的でした。本当に基礎を作ってくれたと思います。テニス部の生徒は今でも3～4年に1回学校に集まってテニスをやって、そ

のあと寿司屋で一杯飲んだりしています。皆75歳くらいになっています。

数学や地学も担当しました。数学は短期間でしたが、地学は1年間やったのです。仮免を出されたのだと思いますが、校長がやれと言うからやった、という感じです。拒否できるとはまったく考えもしませんでした。校長は高橋孝治さんです。

相模原に受験校を

—— 相模原に受験校を作ってくれということだったのですね。

入江 相模原市は18万の人口でしたが、高校は相原(農業科、普通科)と上溝(女子校)だけで、少し離れた津久井を入れても3校しかなかったのです。地元としては本格的な進学校を作ってくれという、強い要望があったと聞いていました。事務長と校長、教頭が11月に赴任。教務主任が英語、生徒指導主任が数学、あとは理科、私が社会。教頭が国語で5教科は一応揃っていました。火、金は全員が揃う日でした。火、金以外は津久井で勤務していましたが、定時制でしたので、できるだけ準備室に来てくれと言われました。津久井に行く日は3時くらいに失礼して津久井に戻り、定時制の授業でした。

準備段階では、校章と制服をまず決めました。校章は三つのペンを図案化したもので、ペンのふちはカタカナのサが三つ(知・徳・体)で相模です。))

1月16日に先生方が4人、事務職員が事務長を入れて3人、技能員が一人で、管理職を入れると10人で、3月までやりました。場所は上溝高校の教室を借りました。

私と事務職一人だけが20代。次に若いのは一回り上で37歳でした。大変ですけど面白かったですね。

—— 校章を作られるには苦労があったと伺いました。

入江 事務長と教頭が大変だったのではないのでしょうか。校章と制服を、いろいろな学校のものを見て決めたわけです。事務長は、高校生を電車の中でじろじろ見たので、なに見てんだとすごまれたとか。3月までには決めなければならなかったのです。

最初は6クラス、次もその次も6クラス。増えても7でしたので、1期の先生方の考えが新しい職員に素直に伝わりやすく、良かったと思います。有馬も10、10、12なので、同じように比較的楽だった。柿生は4、4、8、12できつかったですね。

—— 大変な場所だったと伺いました。

入江 洪積台地でしたからね。「さがみつばら砂漠」、と言われていました。原っぱと雑木林でした。駅から学校までは2キロくらいで国道16号が通っていましたが、家が全くなかった。バスが近くを走っていましたが、学校の前までは来ないのです。停留所から500mくらいは歩かなければならないのですが、舗装されていないので雨が降ると大変なぬかるみでした。

私は当時三鷹から通っていましたが、バス停近くの同僚の先生のお宅に長靴を預けていて、雨が降るとそこで長靴に履き替えてどんこ道を学校まで歩きました。乾くと「砂漠」になるのです。元は畑と雑木林、未開墾の場所も多かったです。学校の前にバスが通ったのは開校から6、7年経っていました。

体育の授業は石ころ拾いとローラー引きです。当時は保健体育ではなく、「土建体育」と言われていました。体育の授業は石ころ拾いとローラー引きです。

—— 当時津久井は小学区でした。上溝と相原の普通科が同一学区でした。そこに相模

原ができたということですね。

入江 相模原などに住んでいる人は、時間をかけて自転車で隣接学区の厚木に通ったわけです。2時間かけて厚木に通ったという人も田名に住んでいた同僚にいました。大和が前年にできています。当時はまず「大和に追いつけ」「(同時に開校した)北陵に負けるな」でした。あとになると「厚木や厚木東に追いつけ」というのが大目標でした。

地元の中学校は応援してくれました。上溝中学はア・テストで400点を超える生徒が3人いたらしいのですが、厚木、厚木東、相模原に一人ずつ送ってくれました。大変なプレッシャーでした。生徒全体のレベルは、当時は輪切りではなく、袈裟懸けくらいでした。一番下はア・テストが半分とれていなかったのではないかと思います。6クラス327人入りましたが、上から下まで広範囲の生徒相手にどうやって進学校にするか大変でした。

開校式は屋上で

入江 1期生は先生と一緒に作るんだという誇りがあり、よく言うことを聞いてくれましたし、ひたむきな向上心がありました。いまだに1期生に会うと言われるのは、1年目の9月に、できるクラスとそうでないクラスに分けてしまったのです。いわゆる習熟度別です。

6段階ではないと思いますが、はっきりした記憶はありません。生徒はショックだったと思いますし、卒業してからショックだったと言われました。夏休み前に提案があつて9月に分けたのだと思います。クラスを解体するからというので皆で扇山に遠足に行ったのが良い思い出です。

2年になるとき理系、文系、文理系と分けていましたが、今ほどはっきりした分割ではなく

(教育課程表 資料)2、3時間ほど違いがある程度の差でした。実際に一番学力が高いものが集まったのは理系でした。先ほどのア・テストの高かった生徒は理系で東大理Ⅰに入りましたが、東大に入ったことによって、厚木でなくても大丈夫と思わせたのは大きかったと思います。2期生では外語大に入った子が出ました。2年のコースは習熟度別ではなく、3年のコースの中でできる、できないを分けてました。2、2、2でできる、できないと分けたのです。それが良かったかどうかわかりません。今同窓会をやりと文理のできないクラスの集まりが一番良いのです。

中学は上溝中学だけでなく、どこも協力してくれました。地域で育てようという雰囲気があったのです。ただ、施設としては恵まれていませんでした。入学式は市の体育館だし、開校式は屋上、卒業式は市民会館でした。体育館で卒業式ができたのは2期生からです。校舎は今、A、B、C棟がありますが、最初は真ん中のB棟だけでした。2年目にC棟ができ、全部揃ったのは66年でした。

—— カリキュラム表では35時間になっていますが、37時間の学年があつたと伺いました。

入江 木曜日に7時間目を入れたのです。当時は土曜日もあつたから、一日7時間目があつて35ですね。はじめは木曜テストというのがあつた。それが授業になったのだと思う。37時間というのは記憶がありません。

—— 当時は0時間目を設定していた学校もあつたようですが。

入江 0時間目は部活の朝練がありましたからできなかったですね。部活は最初からきわめて盛んでした。当時は保護者も先生がやることには納得した時代だったのではないのでしょうか。

軟式テニスは1期生が3年の時、県で優勝し、インターハイ、団体戦、個人戦両方に出ました。文武両道でやっていこうということだったわけです。野球部は秋季大会で県ベスト4になったし、山岳部も関東大会などにはよく行っていました。

初代の小泉校長が作った校訓は面白いです。各教室に貼ってあったのですが、「礼節、信義、根性」です。初代校長は相原から来た人で、校訓の件でも「礼節」を第一に掲げた侍なんです。生徒指導部長のSさんも相原から、そのあと国語の先生も相原からきました。皆、確固たる信念を持った侍みたいな人でした。上溝からは来ていませんでした。

—— モデルにした学校はあったのでしょうか。

入江 モデルにした学校は聞いたことはないですね。一番身近な目標は厚木で、ああいう学校にしようということはありませんね。相模原地区の人の要望は、厚木に負けない進学実績を残す学校を作るということでした。

—— 生徒指導のS先生のなさった生徒指導のイメージは？

入江 S先生は海軍上がりなのでびしっとされてましたね。ただ、生徒にきつくあたるといふ感じではなかった。厳しくあたったのはむしろ我々の世代でした。S先生は我々の世代に自由にやらせてくれたという感じがすかね。年も一回り以上も違うし、話は説得力があり、方向付けはしてくれました。挨拶とか服装とか、具体的にはお前たちに任せるから考えてくれ、という感じですね。

1期生の顔と名前は今も一致

入江 相模原の良いところは先生が生徒を信用していた。生徒も信用してくれたのかなあ、と思います。校長になって戻ったときも

同じだったので、うれしかったですよ。生徒に裏切られたと思ったことはありません。県北地区独特な素直さ、というかな。成績は関係なかったと思います。

1期生は今でも生徒の名前と顔がまだ一致しますよ。6クラスだからできたと思います。向こうも全員の先生の名前を知っていて、胡散臭いという感じで見る子はいなかった。

—— 早くに応援団ができたんですね。

入江 1期生のSが作ったのです。彼は地理ができて私の秘蔵っ子だった。後年相模原に地理の先生になって戻って来たのですよ。彼が応援団をやりたいというので早明戦を見に行ってもらいました。最初は「さがみ」と呼んでいましたが、応援しにくいし、東海大相模や光明相模原などもあったので区別もしにくい。そこで「けんさがみ」になったり、「そうこう」になったりしましたが、「けんそう」に落ち着いたのです。新聞もはじめは「相高新聞」ですね。のちに「県相新聞」に変わりました。Sが「けんそう」という呼び方を考えたのです。1期生が3年の時に野球部が県で3位になりました。Yシャツだけで応援したのですが、「さわやかな新鮮さ」と新聞の記事になりフェアプレー賞をもらいました。

グラウンドはデコボコで石ころだらけでした。中学校から来られた体育の先生がボウリングの名人で、知り合いのいる米軍の座間キャンプにお願いし、トラクターを借りて整地してもらったのです。一日くらいきれいにしてしまいました。

—— 地域が進学校を望んでいたということに対して県に何らかの配慮はあったのでしょうか。

入江 当時は校長権限が強かったから、これと思った人をひっぱってきたのではないのでしょうか。

—— 組合関係もあったのでしょうか。

入江 私は最初の学校で組合の対立から先生が先生をいじめる現場を見てしまったので、絶対に入らないと思うようになりました。組合の問題が相模原創設に大きな影響があったとは思っていません。当時は宿直制だったので勤務が終了してからよく宿直室で若手教員が集まって部活、授業、生徒指導の話をしたのですが、ベテランの先生も加わり、いつの間にか、どうすれば生徒を伸ばしていけるかという活発な論戦になったものです。前向きで生徒を考える教員の中で教えられることの多い年月でした。

—— 最初から部活も行事も盛んだったのですね。ワングルでは50人も部員がいたとか。北アルプスの縦走もなさったのですね。

入江 1期生のアルバムをみるとたくさんいたことがわかります。尾瀬ではテント8帳でキャンプしたこともありますし、勿論、槍ヶ岳、穂高もやりました。

野球部は新人戦の準々決勝で法政二高に勝ったのです。Y高にも勝ちベスト4に入りました。

—— 百キロ歩行というのがあったのですね。

入江 ワングルですね。ワングル主催で希望者が参加しました。新聞部などは取材に来ました。

土曜日の昼に出て、30km歩いて津久井の青根分校に夜の7時、8時頃に到着して仮眠して翌朝3時に出発、山中湖に行きました。さらに籠坂峠を抜けて御殿場まで72kmは全員で、女子はこれで終わりです。あとは新松田までで約百キロ。何年かやりましたし、私も全部歩きました。

卒業式までに校歌を

—— 1963年から学区が変わり、相模原は

県央学区になります。そのことは影響があったのでしょうか。

入江 そのために、厚木、厚木東、大和を何とか追い越すということが課題になったでしょう。

1964年に1期生が入学するわけですが、卒業式までに間に合わせてほしいというのが校歌の制定と体育館でしたが、体育館は間に合いませんでした。校旗もなかったです。

校歌は生徒、職員から募集したのですが、これといったのがなくて、教頭の兄上の伝手で土岐善麿先生に依頼しました。校歌としてはめずらしい歌詞でしたね。「道あり 緑の 光の中に かぎりなく 広く 走る車よ」ですからね。実際に「さがみつばら」を見て土岐先生が感じられたことなのでしょう。作曲は「白い花が咲く頃」などの岡本敦郎さん。土岐さんが紹介してくれました。

発表会の時は2人とも来校され、話をしてくれました。土岐先生には「詩を作るにあたっての思い入れ」のお話をいただきました。「社会的な要請を蹴飛ばすような高校生であってほしい」「偉大なる凡人になれ」「相模原にはフロンティアスピリットがみちあふれている。そのことがこの高校にも感じられる。それを正しい方に延ばしてほしい」といった内容の話をされました。

岡本さんは校歌と「白い花の咲く頃」と「高原列車が行く」を歌ってくれました。近所の人が大勢見に来ました。曲も斬新でした。ソノシートも作って岡本さん自身が歌っていますし、生徒も知っていて一緒に歌っていましたよ。

体育祭の時のデコもユニークでした。1～3年に縦系列で春夏秋冬の4組に分けてやりました。

初代校長が卒業式前の11月に退任されま

したが、2代目の落合さんは8年在職しています。県の私学宗教課におられた方です。三代目は6年。この3代で17年やっていますので、方針が継承されたと思います。相模原が順調に伸びた理由の一つではないでしょうか。落合さんはワンマンでしたね。気に入らない人はいびられたかも知れませんが、学校の土台をしっかり作り上げてくれたと思います。

職員で軟式野球チームを作り、地域の中学校、小学校、市役所、消防、警察などと試合をしました。年に10戦くらいやりましたよ。これは地域交流、地域理解に大いに役立ちました。

—— 相模原は教員としての技術的な基礎をつくってくれた、と伺いました。

入江 地理の授業は進学に耐えうる地理の授業ということで、そういう意味では相模原で勉強のし直しもしました。

部活顧問も、津久井の時は生徒と対等な関係という感じでしたが、相模原のワンゲル顧問は、本格的に顧問をした始まりだと思います。生徒を連れて行くためにはすべてあらかじめ自分が山行きをして、安全性とコース確認をして連れて行きました。責任感がないと山には連れて行けないと思っていました。教員としての総合力をつくってくれたのが相模原ですね。自分が教えた生徒が大学に進学するというのは自分の自信にもなりました。通用するんだな、という感じですね。生徒とも、いまだに交流が続いています。

ふたたび相模原に

—— 最後の2年間校長として戻られた時はいかがでしたか

入江 歓迎のあいさつで、お帰りなさい、と言われました。1期生たちが相模原に子どもを入れる年代になっていて、PTAの役員

にも卒業生がいたし、同窓会長も教え子でした。また、卒業生の中にも教員として戻って来ている者がいました。楽をさせてもらったと思っています。

生徒と教員との間に信頼関係があるという、基本のところが残っていたのはうれしかったです。県北地区独特の雰囲気良かったのかもしれない。その前の中沢は大好きでしたが、やはり県北と横浜とは雰囲気が違います。

退職の際、「回顧・雑感」としてまとめたものがあります。それを見ながら振り返ってみますと、相模原の時、27歳で結婚したのですが、新婚旅行中に新居はワンゲル部の合宿所となってしまうというような感じでした。

小田原城内では最初に生徒指導部を希望したら、生徒が何も事件を起こさないのを希望が殺到している分掌でした。何がつまらないといって生徒が何でもできちゃうのですよ。小田原は城下町独特の雰囲気です。旦那が小田原高でかみさんが城内という人たちが仕切っているところです。6年間いて2回卒業生を出しました。次は柿西で大変でしたが、やりがいもありました。

■語り手のプロフィール■

入江 諄一（いりえ・じゅんいち）氏

1961年、大学卒業後、津久井高校定時制に赴任。1964年2月、相模原高校開設準備にあたる（兼務）。同4月相模原高校開校。1972年4月小田原城内高校に異動。1978年2月柿生西高校開設準備にあたる（兼務）。同4月柿生西高校開校。1983年2月有馬高校開設準備にあたる（兼務）。同4月有馬高校開校。1991年4月相武台高校に異動（教頭）。1994年4月中沢高校に異動（校長）。1997年相模原高校に異動（校長）。1999年3月退職。社会科（地歴・公民科）担当。

【資料7】相模原高校1964年度教育課程

学科類型		文科コース				理科コース				文理科コース			
学年		1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計
国語	現代国語	3	3	3	20	3	2	2	16	3	3	3	18
	古典乙Ⅰ	2	3			2	3	3		2	3		
	古典乙Ⅱ			4								3	
	漢文	1	1			1				1			
社会	倫理社会		2		18		2		15		2		16
	政治経済			2				2				2	
	日本史			4				3				3	
	世界史B		4	2			2	2			4	1	
	地理B	4				4				4			
数学	数学Ⅰ	6			16	6			19	6			17
	数学ⅡB		5				7				6		
	数学Ⅲ			5				6				5	
理科	物理B		3	2	15		3	3	19		3	3	18
	化学B		2	2			3	3			3	3	
	生物	4				4				4			
	地学	2				2				2			
保体	体育	男4 女2	2	3	男11 女9	男4 女2	2	3	男11 女9	男4 女2	2	3	男11 女9
	保健		1	1			1	1			1	1	
芸術	音楽	1	1		2	1	1		2	1	1		2
	美術	1	1			1	1			1	1		
外国語	英語B	6	7	6	19	6	7	6	19	6	6	7	19
家庭	家庭一般	女2			女2	女2			女2	女2			女2
選択		1			1	1			1	1			1
特活	HR	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3
計		35	35	35	105	35	35	35	105	35	35	35	105

注 音楽と美術はどちらかを選択

1963年実施の指導要領に基づく教育課程である。

出典：創立十周年記念誌